

ウグイの人工採卵手法の検討

福島県内水面水産試験場 生産技術部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－内水面養殖業

2 担当者名

遠藤雅宗、坂本 啓、渡邊昌人

3 要旨

ウグイは福島県内で第五種共同漁業権の対象魚種であるため、福島県内水面水産試験場では県内の漁協に放流用のウグイ種苗を供給している。種苗生産には河川に自然採卵した卵を用いているが、天候等の影響で産卵時期や産卵量が安定しないことが問題点である。そこでウグイ卵を安定して入手するために、人工採卵手法を検討した。人工採卵床に見立てた砂利の山と水流を用いることで、6月中旬にウグイの排卵及び放精を促すことができた。

- (1) 長野県の事例を参考に（小松ら 2015-2017）、試験池（2×5×1 m、コンクリート製）に短径 2.5～6.0 cm の砂利を円錐型（高さ 40 cm、直径 140 cm）に盛り上げ、上部にすり鉢状の窪み（直径 30 cm、高さ 10 cm）を作った（図1）。
- (2) 水深は 50 cm にし、水中ポンプで水流をすり鉢状の窪みに送った（図2）。流速は水産庁のパンフレットを参考に（水産庁 2010）、60 cm/秒とした。水温は 14.0～17.5℃であった。
- (3) 池には雌雄混合のウグイ（2-3 歳魚）250 尾を収容し、すだれを被せて成熟を促した。
- (4) 収容から 1-2 日後に取り上げて、成熟が確認された個体（雌 82 尾、雄 24 尾）から卵及び精子を搾出した（図3）。それら以外の 144 尾は雌雄不明かつ未成熟であった。採卵量は全体で 1.44 kg（86,280 粒、17.5 g/尾、1,050 粒/尾）であった。
- (5) 成熟個体には雌雄共に頭部から背中にかけての追い星や、オレンジの婚姻色がみられた。

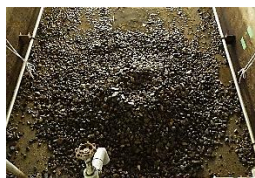


図1



図2



図3

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度～令和7年度
- (2) 研究課題名 淡水魚の安定供給体制確立

5 主な参考文献・資料

- (1) ウグイの人工採卵技術の確立-Ⅰ～Ⅲ, 小松典彦, 茂木昌行, H25～27年度長野県水試事報
- (2) 水産庁, ウグイ人工採卵床の作り方, 2010